全国非開削普及協議会 PRESS

Vol.27

2013年（平成25年）9月18日　（昭和44年4月21日 第三種郵便物認可）　日本下水道新聞

全国非開削普及協議会

設立10年の節目祝う

記念式典 EGSM工法が広く普及

岡本会長

全国非開削普及協議会（会長＝岡本州雄スピーダーレンタル社長）は8月23日、都内ホテルで創立10周年記念式典・祝宴会を開催した。

記念式典で挨拶に立った岡本会長は「環境にやさしい非開削工法の普及を官民一体で進めることを目的に平成16年に創設された民間ボランティア団体」と同協議会の設立趣旨に触れるとともに、非開削工法の発展について謝辞を述べた。

続いて同協議会の初代会長である小池武則名誉会長の挨拶や同協議会の10年間の歩みが解説され、雨水集水ますを浸透化するEGSM工法が広く普及しつつあることが紹介された。

来賓を代表して挨拶に立った日本推進技術協会の石川和秀専務理事は「実績に敬意を表しながら今後の活躍に期待する」と祝辞を寄せた。

また会員紹介や功労者表彰の後、特別記念講演として電気通信大学の千野俊猛特任教授が「世界のパラダイムシフト　日本はデフレ脱却、モノづくり再生を！―失われた20年を取り戻せ―」というテーマで、創造型内需の創出など日本経済再生に向けた持論を紹介した。

法について理解を示したほか、「事業が円滑に進むのも非開削工法のおかげ」と敬意を表した。続いて日本非開削技術協会の安中徳二会長が乾杯を発声。

アトラクションでは八王子舞踏研究会の舞踏や雨水貯留浸透技術協会の屋井裕幸技術第二部長が作詞した水循環テーマソング「雨の恵み～水循環（めぐり）賛歌～」の歌唱披露などの催しが行われた。

週刊ブロック通信　第2749号　（第三種郵便物認可）　週刊ブロック通信　平成25年9月2日

全国非開削普及協議会

創立10周年記念式典開く

岡本会長

全国非開削普及協議会（会長＝岡本州雄氏）が創立10周年を迎え8月23日、メルパルク東京（東京都港区）で記念式典と祝宴会を開催した。同協議会は平成16年7月、非開削で下水道管渠を敷設する非開削工法の普及を官民一体で推し進めることを目的に創設。会員社37社により、全国レベルで非開削工法普及キャンペーンを展開している。

式典開催にあたり挨拶した岡本会長は「当協会は小池武則初代会長や日本推進技術協会の石川専務理事の尽力と、会員各社の協力により10周年を迎えることが出来た。この10年、全国で実施したキャンペーンにより各地域で環境に優しい非開削技術が定着していることを実感している。式典ではこれまでの協会の歩みを振り返ると共に、会員がこれまで培ってきた英知を震災の復旧復興や社会資本整備事業に役立てて行くことを誓う場としたい。本日は特別記念講演も企画しており、今後の当協議会の方向性や事業トレンドを見定めていきたいと考えている。また祝宴会では日頃の感謝を込めて様々なアトラクションなどを用意した。大いに楽しんで欲しい」と述べた。

また同協議会名誉会長の小池武則氏は「会員各社と10年にわたり共に非開削工法の普及に努め、10周年を迎えることが出来たことを誇りに思う。信念を持って業務に力を尽くせばチャンスが広がるもので、不可能と思うことでもあきらめずに考え続けることが新たな発展につながる。これからも常にチャレンジ精神を持ち続けて欲しい。当協議会では近年、既設の集水桝を浸透化する新たな事業に取り組んでいる。この事業も新しい発想から生まれたものであり、市民生活の安全安心に無くてはならないものと確信している。10年間の実績を糧に、当協会の更なる発展と社会貢献を続けて欲しいと願っている」と挨拶した。

功労者表彰では、エンドー総建（福島県）・風間産業（長野県）・小池建材（東京都）・大道土木（宮城県）・ハシックス（神奈川県）・ホウショウEG（愛知県）・モグラ研究所（東京都）・ユウコウ建設（東京都）の8社に感謝状と記念品が贈られ、受賞者を代表して風間産業の中村英俊社長が「今回の表彰を機にこの10年間の運動をさらに発展させ、当協議会の更なる発展・技術革新・社会貢献の一翼を担いたい」と謝辞を述べた。

来賓では、公益社団法人日本推進技術協会の石川和秀専務理事と国土交通省水管理国土保全局の岡久宏史下水道部長が挨拶した。

日本推進技術協会の石川専務理事は「非開削技術を社会が求める限り、その歴史は20年30年と続いていく。その意味で今後の貴協議会の活躍に期待すると共に、各企業が収益を上げて次の技術に向かう力を蓄えて欲しい。当協会としても積極的に事業活動のサポートをしたいと考えている」と述べた。

また国土交通省の岡久部長は「非開削工法は環境に優しくコストも安いリーズナブルな工法だ。10年にわたり非開削工法の普及に努めてきた貴協会の取り組みに改めて敬意と感謝の意を表したい。全国の下水道普及率は76％だが、これを85％程度まで伸ばしたい。毎年1％ずつ伸ばして、あと10年という計算だ。しかしそれで工法の役目が終わる訳では無く、次は改築更新の時代になる。改築更新の推進技術普及にも貴協会の力が必要だ。推進工法は海外でも注目を集めており、特にベトナムやインドネシアでは大いに注目されている。是非、海外への普及促進も図って欲しい。また近年はゲリラ豪雨による内水氾濫が問題になっているが、貴協会が開発した集水ます浸透化工法が有効な対策になるものと期待している」と挨拶した。

特別記念講演では、電気通信大学特任教授で元日刊工業新聞社長の千野俊猛氏が「世界のパラダイムシフト　日本はデフレ脱却、モノづくり再生を！」と題して講演した。講演で千野氏は「この20年間日本は成長してこなかった。そういう環境下で生き残った企業の将来は非常に明るい」とした上で、「アメリカ経済が本格的に再生し世界のリーダーに復活した。しかもシェール革命で世界のエネルギー大国に生まれ変わる。このようなアメリカ経済の復活により、日本経済も回復する。その意味では日本の景気回復は、アベノミクス効果と言うよりもアメリカ効果と言える。株価は年度内に2万円を伺う一方、為替相場はこれ以上のドル高円安をアメリカが望まないので1ドル＝100円プラスマイナス5円程度で安定するだろう」と述べた。

また日本経済再生の処方箋の最重要項目として「日本が生きて行くには科学技術とモノづくりへの投資以外に無い。技術は留まる所を知らない」と指摘し「増産投資よりも新技術・新製品開発・競争力強化にむけた投資を先行させるべき」と述べた。さらに千野氏は「創業100年以上の100年企業が世界に4万5000社あり、その半分以上2万5000社が日本にある。日本は世界一の長寿企業大国だ」とした上で、100年経営企業の特色として計画な経営理念、顧客・従業員・地域など人を大事にする経営、伝統の継承と革新を挙げ、「屏風と商売は広げ過ぎると倒れるし、新規事業を立ち上げる時には会社のコア事業から派生するものを選ぶべき」と述べた。

祝宴会では、八王子舞踏会による舞踊や水環境テーマソングの披露、歌謡ショーなどが行われた。

2013年（平成25年）9月2日（月曜日）　第3077号　セメント新聞　発行所 セメント新聞社

10周年迎え記念式典

全国非開削普及協議会

全国非開削普及協議会（東京都八王子市、岡本州雄会長）は8月23日、東京都港区のメルパルク東京で創立10周年記念式典を開催、関係者約80人が出席し節目を祝った。同協議会は、道路を開削せずに下水道管を敷設する推進工法など、非開削技術の活用を自治体に提案する目的で04年に設立された。

岡本会長

非開削技術は開削工事に伴う大きな騒音や振動の発生、また道路交通制限や大量の建設残土処理など様々な障害を軽減、回避することが可能だ。式典の冒頭、岡本会長は、創立10周年を迎えた事に関し会員各社、関係団体に謝辞を述べた後「この10年間、全国の自治体、コンサルタントに対し、非開削工法の普及キャンペーン活動を実施してきた結果、多くの地域でこの技術が定着してきた事を実感している。今後はこれまで培ってきた英知を生かし、東日本大震災の復旧・復興、並びに社会資本整備に役立てていく事を誓う」と決意を表明した。

式典では同協議会の10年間の歩みの紹介や功労者表彰などが行われた。